

【地震三年】

「母校の土」を甲子園に

ここ数年、春・夏の甲子園大会で自分の守備位置やベンチの前にひと握りほどの「母校の土」をまいている選手がいるようだ。

球児たちは、なぜ「母校の土」をまくのか、その理由をきいてみた。

関東の名門校K主将

『僕たちは、甲子園でも普段と同じ気持ちで試合ができるようにと考え「母校の土」をもってきました。』

関西の強豪チームの主力選手Dくん

『よその選手は泣きながら土を持ち帰りますが、僕らは「母校の土」を笑いながら甲子園にまいてきました。チョット生意気ですか？』(笑)

九州地方の学校で野球部長だったE先生

『私たちのチームは、以前に出場した選手たちが、あまりに多くの土を持ち帰ってしまい関係者の皆様にご迷惑をおかけしました。今度の選手たちは、その反省から「母校の土」を持参したようです。』

東北地方のチームでベンチ入りしたSくん

『今の流行だと先輩に聞き、他の学校の真似をしてみました。』

球児たちは、様々な理由で「母校の土」をまいているようだ。

スポーツライター山岡昇さん(35)の話

『詳しくはわかりませんが、あの大地震が何か影響しているようです。球児たちは、表面上いろいろなことを言いますが、本心では全国の仲間たちへの想いを「母校の土」に託し、甲子園に残していくのではないのでしょうか。』

大地震から三年。今年も春の選抜大会が近づき、甲子園球場では球児たちを迎える準備が着々と進んでいる。 (文責・藤原)